

一般質問 まとめ 4. 電子投票の取り組みについて

2024年12月3日 町田市議会議員 無所属会派 吉田つとむ

以下は、12月3日の一般質問で「4. 電子投票の取り組みについて」の質問、答弁の流れをまとめたものです。



日本で最初の電子投票選挙を視察取材 吉田つとむ撮影

「今月12月22日、8年ぶりに電子投票選挙が行われる」という小さなニュースがあった。

私は電子投票選挙のマニアなのですぐに調べてみたが、電子投票は大阪府四条畷市で行われる。

ただし、ネットの話題は、この選挙の別の側面（現職2期目の市長が自分は本期で引退し、有名な就職情報サイトと一緒に、新たな市長候補を公募したこと、200人以上が応募してきたこと、その後の選考で特定の人物に決まったこと、さらに、続きの諸々）ばかりが記事になっていた。

それでは、今回計画されている、電子投票選挙の実状がよくわからないもので、現地で見るほかないと考えた。ちなみに、私は電子投票選挙が始まった平成13年（2003年）の前年と翌年に、そのテーマで一般質問を行っている。



四条畷市立市民総合体育館 電子投票の開票所としては広すぎないか



参考：新見市の電子投票選挙の開票所：ステージ上で開票作業、大学生が一人で見学に来ていた。メディアのカメラの放列がすごい

大阪府四条畷市という、大阪府の東側にある、面積約 18.69 km²、人口 53,757 人、世帯数 24,959 世帯（令和 6 年 10 月末現在）

比較的小規模な都市で、議員定数 12 名の規模となっている。

そこで、質問として、

（1）電子投票の取り組みについての見解を町田市選挙管理委員長に尋ねたい。
としました。

選挙管理委員長の答弁によると、

電子投票選挙は、これまで 10 自治体で実施され、25 回実施されている。

岐阜県可児市において、電子投票選挙が行われたが、その際、電子投票機がストップし、投票を行えなくなり、最高裁まで争われた裁判で可児市選挙の無効が確定し、再選挙が行われることになった。これによって、他の自治体に電子投票選挙が進まず、さらに、個別自治体で電子投票選挙を行うことでコストがかさむこともある、今から 8 年前に、全ての電子投票選挙が無くなってしまった。また、電子投票選挙を条例で定めていた自治体も全て廃止したと言うものでした。

以上を踏まえて、今回の一般質問では、電子投票選挙がどのように行われたかを自分で述べると、「電子投票選挙とインターネット選挙の相違について」を聞くことにした。

この四条畷や町田でも人に聞くと、電子投票選挙とインターネット投票選挙が混同されている傾向があると感じていることによるものである。

私が述べた電子投票選挙の事例は以下の通りです。

電子投票選挙は、これまで 10 自治体で実施され、約 20 回実施されている。私はその 10 自治体の全部で電子投票選挙を見ている。また、最後の 8 円前まで続いた青森県六戸町にもその選挙を見に行っている。その六戸町長ともなじみになっていました。

そうした中で、電子投票選挙の失敗事例として歴史になっているものでは、岐阜県可児市市議会議員選挙がある。それを直に見ていない人には、「可児ショック」として自縛を生む時代がこれまで続いてきたと考えられる。

その時の選挙の結果に、立候補の当事者から異議申し立てがあり、最高裁判所まで争われ、ついに、選挙無効になったものです。再選挙が紙の投票で実施され、当選者が入れ替わる例がありました。落選した候補者の一人が裁判でこの投票結果を無効と判定させたものです。異議申し立てをした人は再選挙で当選しました。

それまで複数メーカーの電子投票機では、タッチパネル入力した情報が、その本体に入れた記憶媒体（コンパクトフラッシュ等）に記憶するもので、スタンドアロン型と称され、ネットワーク接続を必要とせず、単独で記憶装置にデータを記録するものでした。

一方で、富士通・ムサシグループは、クライアントサーバ型と言い、複数の電子投票機とサーバーをランで接続したもので、利便性が高いと言う触れ込みでしたが、

この可児市電子投票選挙は、後発メーカーとして初参入した「富士通・ムサシグループ」の機種が使われ、投票端末機と記憶媒体（当時の MO）をケーブルでつないだ方式=クライアントサーバ型という自慢のタイプであった。しかし、急遽開発されたことで、耐用試験を実施せずに、本物の選挙に持ち込んだものであった。その結果、選挙の投票時間の途中で記憶装置がオーバーヒートして、電子投票機がストップし、操作が出来なくなったものです。つまり、選挙の最中に投票が出来なくなり、少なからぬ有権者が投票所から引き揚げてしまったものです。本来、裁判で争うまでもなく、投票機器を導入した富士通・ムサシグループと、他の競合メーカーとの競争入札を排除した行政が即座に責任を取って、市民と選挙の当事者とにお詫びとして、再選挙の費用負担を行い、その再選挙には当該責任メーカーとして入札には参加しない旨を表明するべきであろうと考えている。

参考 <https://yoshidaben.jp/shousai/sakuin/kako/006doc/ike/dennshi/ichiran.htm>
岐阜県可児市

- (03/08/15) 可児市電子投票選挙のその後の問題
- (03/08/15) 可児市議選の選挙無効の訴えと現地の苦悩
- (03/08/15) 可児市の電子投票機の子機の取扱
- (03/08/15) 可児市電子投票の開票に食い違い発生
- (03/08/15) (続き) 可児市電子投票のトラブル続報とその内容
- (03/08/15) 可児市電子投票のトラブル続報とその内容
- (03/08/15) 可児市議選候補者の電子投票広報状況
- (03/08/15) 電子投票のニュース報道とネットカフェ
- (03/08/15) 電子投票取材と現場優先主義
- (03/08/15) 視察中の休息時間と昼食
- (03/08/15) 可児市の電子投票の開始とトラブル発生

(03/08/15) 可児市の電子投票とその準備状況、選挙運動

(03/08/15) 岐阜県可児市の電子投票とその日程(影絵さんとのやり取り)

<最後の例示> (このブラジルの電子投票選挙の部分は、質問時間がオーバーする可能性、及び、話が飛躍していると思われるもあって、一切割愛し、触れなかった)

ブラジルの電子投票選挙 2003年4月15日にブラジル大使館で日本にも紹介される。

その後、在日ブラジル人を対象に、ブラジルの選挙の投票が電子投票で行われている。

大使館の電子投票機の紹介に関して、電子投票機のデモ操作は、新聞記者でない その場に一般取材で来ていた私が指名され、番号操作で投票者を決めました。

ブラジルは、日本の国内（領事館等）において、ブラジル人を対象に電子投票を行っている。

そこで、

「電子投票選挙とインターネット選挙の相違について」

を改めて聞いた。



六戸町に設置されていた電子投票のデモ機を操作しています。(2016.01.17-18) 視察報告書提出

選管委員長の答弁では、

これまでに行われた選挙は、指定された投票所に設置された電子投票機を使って行う選挙であって、ネット接続したスマホやパソコン（タブレット）を使って選挙の投票を行うもので無かつたことが説明されました。

再々質問では、

選管委員長は、議員の経験も長いので、町田市議選の開票時間の遅さをご自身でも経験されていると思う。

一方で、町田市議会の本会議場の採決は起立表決の当時と変わって、この新庁舎建設より電子表決と変わり、賛否の判定が明快になり、特に、今年から議員の賛否結果表示のスピードが上がり、瞬時に表示されています。電子投票の利便性と考えています。これも、選管委員長の議員時代と全く変化していると思います。

もちろん、町田市議会の議員賛否表示は記名表示ですが、一般選挙では投票者が誰に投票したかはわからないように、シャッフルと言う方法で、個別の投票データは個々の投票者と判別されない方法が採用されていることを合わせて述べておきます。

選挙の開票時間に関して、町田市は夜半に及ぶことがあり、新聞の記事掲載が時間によって、選挙の開票結果とまったく異なる事例が起きている。新聞社が悪いとも言えず、開票の速報性を選管が確保する上で、今回の四条畷市の電子投票選挙の投開票結果と、電子投票選挙の採用が優位

性に注目されたいと述べました。

#電子投票選挙,#大阪府四条畷市,#岡山県新見市,#岐阜県可児市,#町田市選挙管理委員長,#町田市議会議員,#吉田つとむ,#インターネット選挙,#最高裁判所,#スタンドアローン型,